



(様式第 9)

事総務 第 24-130 号
平成 24 年 10 月 2 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 藤井 清孝

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	132 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	497人	96人	513.1人	看護補助者	74人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	1人	3人	1.3人	理学療法士	23人	臨床検査技師	111人
薬剤師	58人	0人	58.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	4人	0人	4.0人	視能訓練士	11人	その他	0人
助産師	37人	1人	37.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	999人	35人	1016.7人	臨床工学技士	31人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄養士	2人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	0人	0人	0.0人	歯科技工士	0人	事務職員	213人
管理栄養士	23人	0人	23.0人	診療放射線技師	64人	その他の職員	122人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	771.5 人	人	771.5 人
1日当たり平均外来患者数	2475.2 人	人	2475.2 人
1日当たり平均調剤数	1,893 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織移植手術	22人
胸腔鏡下動脈管開存症手術	8人
末梢血単核球細胞による血管再生治療	6人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	15人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療（平成24年4月 保険収載）	6人
先天性難聴の遺伝子診断（平成24年4月 保険収載）	4人
腹腔鏡下膀胱内手術（平成24年4月 保険収載）	0人
超音波骨折治療法（平成24年4月 保険収載）	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	129人	・膿疱性乾癬	17人
・多発性硬化症	85人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	144人	・原発性胆汁性肝硬変	44人
・全身性エリテマトーデス	688人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	72人
・再生不良性貧血	56人	・混合性結合組織病	99人
・サルコイドーシス	85人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	9人	・特発性間質性肺炎	20人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	461人	・網膜色素変性症	36人
・特発性血小板減少性紫斑病	141人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	58人	・肺動脈性肺高血圧症	18人
・潰瘍性大腸炎	53人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	36人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	30人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	56人	・慢性血栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	40人	・ラインゾーム病	15人
・クローン病	20人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	25人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	229人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・後縦靭帯骨化症	22人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	104人	・ミトコンドリア病	9人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	166人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	41人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	81人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定	・
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・腹腔鏡下膀胱内手術	・
・超音波骨折治療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病院病理部 150回/1年(週3回)
部 検 の 状 況	部検症例数 52例 / 部検率 6.60%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療に関する研究	小泉和二郎	消化器内科	100万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
進行肝胆膵がんの治療法の開発に関する研究	木田光広	消化器内科学	12万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
早期胃がん内視鏡切除症例のWebを用いたがん登録システムによる前向きがん登録に関する研究	田邊 聡	消化器内科	50万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性及び安全性に関する多施設協働研究	田邊 聡	消化器内科	50万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
食道癌EMR症例におけるヨード不染帯をバイオマーカーにした多発がん発生のリスクと多発がん発生までの期間の検討に関する多施設共同前向きコホート研究	堅田親利	消化器内科学	50万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
胃癌DCS療法効果予測-IHC定量RT-PCRによる解析	成毛 哲	医療系研究科 消化器内科学	7万円	補委 公益財団法人かながわ健康財団
				補委

計 6件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Liver Int. 2011 Mar ; 31(3):340-7.	Re-appearance of hepatitis B virus following therapy with rituximab for lymphoma is not rare in Japanese patients with past hepatitis B virus infection.	渡邊真彰	消化器内科学
The Kitasato Medical Journal 2011 ; 41(1):63-68	Basic studies of vascular images as seen with indocyanine green-guided ray electronic endoscopy as compared with microangiography.	田邊 聡	消化器内科学
J Interv Gastroenterol. 2011 Jul ; 1(3):102-107.	Comparison of diagnostic accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration with 22- and 25-gauge needles in the same patients.	木田光広	消化器内科学
Endoscopy. 2011 Sep ; 43(9):796-801.	Fine needle aspiration using forward-viewing endoscopic ultrasonography.	木田光広	消化器内科学
The Kitasato Medical Journal 2011, 41:170-177	Studies of endoscopic ultrasound-guided drainage for pancreatic pseudocysts and abscesses: a university hospital-based experience.	木田光広	消化器内科学
Endoscopy. 2011 Dec;43(12):1039-44.	Endoscopic management of malignant biliary obstruction by means of covered metallic stents: primary stent placement vs.re-intervention.	木田光広	消化器内科学
J Gastroenterol. 2011 Nov ; 46(11):1316-23.	Effects of 1-year administration of olmesartan on portal pressure and TGF-beta1 in selected patients with cirrhosis: a randomized controlled trial.	日高 央	消化器内科学
Pathobiology. 2011 ; 78(6):334-42.	Future perspectives for the development of chemotherapy for advanced gastric cancer: Japanese and global status.	樋口勝彦	消化器内科学

Eur J Pharmacol. 2011 Feb 10 ; 652(1-3):121-5.	Protective effect of geranylgeranylacetone against loxoprofen sodium-induced small intestinal lesions in rats.	岩井知久	消化器内科学
J Viral Hepat. 2011 Jul ; 18(7):e191-9.	Viral level is an indicator of long-term outcome of hepatitis B virus e antigen-negative carriers with persistently normal serum alanine aminotransferase levels.	中澤貴秀	消化器内科学
Digestion. 2011 Feb ; 84(1):12-21.	Submucosal Fibrosis and Basic-Fibroblast Growth Factor-Positive Neutrophils Correlate with Colonic Stenosis in Cases of Ulcerative Colitis.	山縣 仁	消化器内科学
J Interv Gastroenterol. 2011 Oct;1(4):149-152.	Clinical and histopathological characteristics of patients with duodenal papillary tumors treated at Kitasato University East Hospital.	池田弘子	消化器内科学

計 12件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性疾患克服研究事業 特発性心筋症に関する調査研究	和泉徹	循環器内科	100万	補委 厚生労働省
地域医療基盤開発推進研究事業 心臓病の再発予防を目途とした地 域連携クリニカルパスの電子化モ デル構築に関する研究	和泉徹	循環器内科	1470万	補委 厚生労働省
心不全・心筋症の免疫学的発症 機構の解明とその臨床応用	猪又孝元	循環器内科	650万	補委 車両財団公益資金 折念財団
Kv1.3移入繊維芽細胞による不全 心筋の活動電位再生と逆リモデリ ング誘導の研究	庭野慎一	循環器内科	500万	補委 独立行政法人日本 学術振興会

計 4 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nutri Metabo, 8:3, 2011	Circulating Interleukin-18: A Specific Biomarker for Atherosclerosis-prone Patients with Metabolic Syndrome.	Yamaoka-Tojo M, Tojo T, Wakaume K, Kameda R, Izumi T, 他3名	循環器内科
Cardiovasc Drug Ther, 25(Suppl 1): S33-45, 2011	Efficacy and Safety of Tolvaptan in Heart Failure Patients with Volume Overload Despite the Standard Treatment with Conventional Diuretics: A Phase III, Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Study (QUEST Study)	Matsuzaki M, Hori M, Izumi T, Fukunami M for the Tolvaptan Investigators	循環器内科
Cardiovasc Drug Ther, 25(Suppl 1): S47-56, 2011	Efficacy and Safety of Tolvaptan in Heart Failure Patients with Sustained Volume Overload Despite the Use of Conventional Diuretics: A Phase III Open-Label Study.	Fukunami M, Matsuzaki M, Hori M, Izumi T for the Tolvaptan Investigators	循環器内科
Cardiovasc Drug Ther, 25(Suppl 1): S19-31, 2011	Cardiovascular Drugs and Therapy. Effects of Tolvaptan on Volume Overload in Japanese Patients with Heart Failure: Results of a Phase II, Multicenter, Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Parallel-group Study.	Matsuzaki M, Hori M, Izumi T, Asanoi H, Tsutamoto T, for the Tolvaptan Investigators	循環器内科
Circulation J, 75(9):2062-70, 2011	Intensively Lowering Both Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Blood Pressure Does Not Reduce Cardiovascular Risk in Japanese Coronary Artery Disease Patients.	Kohro T, Yamazaki T, Izumi T, Nagai R, 他4名 and JCADII Investigators	循環器内科
J Card Fail, 17(6):503-10, 2011	The Effects of Depression on the Course of Functional Limitations in Patients with Chronic Heart Failure.	Shimizu Y, Yamada S, Miyake F, Izumi T, PTMaTCH Collaborators	循環器内科
Cardiovasc Ther, 29(1):46-53, 2011	Beneficial Effects of L- and N-type Calcium Channel Blocker on Glucose and Lipid Metabolism and Renal Function in Patients with Hypertension and Type II Diabetes Mellitus.	Masuda T, Ogura MN, Moriya T, Izumi T, 他6名	循環器内科
Cardiovasc Drugs Ther 2011; 25 Suppl 1: S57-65.	Tolvaptan Investigators. Phase III clinical pharmacology study of tolvaptan.	Inomata T, Izumi T, 他3名	循環器内科

Int Heart J 2011; 52: 119-126.	Prognostic significance of right ventricular dimension on acute decompensation in chronic left-sided heart failure.	Maekawa E, <u>Inomata T</u> , Izumi T, 他6名	循環器内科
Int Heart J 2011; 52: 114-118.	Comparison of nitrite compounds and carperitide for initial treatment of acute decompensated heart failure.	Mizutani T, <u>Inomata T</u> , Izumi T, 他6名	循環器内科
Int Heart J 2011; 52: 110-113.	Clinical significance of corticosteroid therapy for eosinophilic myocarditis.	Yanagisawa T, <u>Inomata T</u> , Izumi T, 他6名	循環器内科
Circ J 2011; 75: 662-671	N-acetylcysteine Suppresses the Progression of Ventricular Remodeling in Acute Myocarditis. - Studies in an Experimental Autoimmune Myocarditis (EAM) model-	<u>Niwano S</u> , Niwano H, Sasaki S, Izumi T, 他4名	循環器内科
Circ J 2011; 75: 1386-1393	Progression of Ventricular Remodeling and Arrhythmia in the Primary Hyperoxidative State of Glutathione Depleted Rats.	Kurokawa S, <u>Niwano S</u> , Niwano H, Izumi T, 他5名	循環器内科
Circ J 2011; 75, 2357-2362	Determinants of Warfarin Use and International Normalized Ratio Levels in Atrial Fibrillation Patients in Japan.	J-RHYTHM Registry Investigators, <u>Niwano S</u> , et al.	循環器内科
Int Heart J 2011; 52, 353-358	Repetitive Evaluation of the Fibrillation Cycle Length Predicts the Efficacy of Bepridil for Interruption of Long-Lasting Persistent Atrial Fibrillation.	Aoyama Y, <u>Niwano S</u> , Niwano H, Satoh A, Izumi T, 他5名	循環器内科

計 15件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マウスネフローゼモデルの確立	鎌田貢壽	腎臓内科	770,000	補 委 神奈川県衛生部
				補
				補
				補
				補
				補
				補
				補
				補
				補
				補

計 1

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
透析会誌44	腎不全患者を対象としたOPF-102の臨床試験(第Ⅲ相)	秋葉隆	腎臓内科
日本腎臓学会誌53	膜性腎症の病因Ⅱ 実験腎炎からみたヒト膜性腎症	鎌田貢壽	腎臓内科
Kitasato Med J41	Nephrin signal peptide sequence cDNA in expression vector determined antibody characteristics reacting on native or glycosylation-disturbed nephrin protein in genetic immunization	Naito S	腎臓内科
Clin Exp Nephrol 15	Antigen-binding abilities of anti-nephrin antibody are prescribed by signal sequence of expression vector in genetic immunization	Naito S	腎臓内科
Kitasato Med J.41	Injection of rabbit polyclonal antibody induced by genetic immunization with rat nephrin cDNA caused massive proteinuria in rat, a new model of rat nephritic syndrome	Okamoto T	腎臓内科
Kitasato Med J.41	Paasive Heymann nephritis induced by genetic immunization using megalin cDNA fragments	Tazaki H	腎臓内科
腎炎症例研究28	自己血輸血後に急性尿細管壊死による急性腎不全を発症し、原因としてヘモグロビン尿症が疑われた一例	岡本智子	腎臓内科

計 7

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ミトコンドリア病の診断と治療に関する調査研究	飯塚 高浩	神経内科	500,000	(補) 国立保険医療科学
変異SOD1導入グリアが引き起こす運動ニューロン障害機序の解明	永井真貴子	神経内科	910,000	(補) 基盤研究(C)
				補委

計 2

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Future Neurology	Pathophysiology of stroke-like episodes in MELAS: A possible role of neuron-astrocyte uncoupling in cellular damage during synaptic activation under primary oxidative phosphorylation defect.	Iizuka T, Sakai F	北里大学医学部神経内科学
J Neuropathol Exp Neurol 2011 Aug;70(8):686-97	parkin-Mediated Protection of Dopaminergic Neurons in a Chronic MPTP-Minipump Mouse Model of Parkinson Disease	Yasuda T, Hayakawa H, Nihira T, Ren YR, Nakata Y, Nagai M, Hattori N, Miyake K, Takada M, Simada T, Mizuno Y, Mochizuki H	北里大学医学部神経内科学
Neurol Res.2011 May;33(4):427-32	Comparisons of acoustic function in SCA31 and other forms of ataxias	Ikeda Y, Nagai M, Kurata T, Yamashita T, Ohta Y, Nagotani S, Deguchi k, Takehisa Y, Shio Y, Matsuura T, Abe K	北里大学医学部神経内科学
J Neurosci Res 2011 May;89(5):718-28	Disruption of neurovascular unit prior to motor neuron degeneration in amyotrophic lateral sclerosis	Miyazaki K, Ohta Y, Nagai M, Morimoto N, Kurata T, Takehisa Y, Ikeda Y, Matsuura T, Abe K	北里大学医学部神経内科学
Brain Res.2011 Jan31;1371:161-70	Atorvastatin and pitavastatin improve cognitive function and reduce senile plaque and phosphorylated tau in aged APP mice	Kurata T, Miyazaki k, Kozuki M, Violeta-Lukic-Panin, Morimoto N, Ohta Y, Nagai M, Ikeda Y, Matsuura T, Ade K	北里大学医学部神経内科学

計 5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自己免疫疾患における病原性自己抗体の産生機序の解析	廣畑 俊成	膠原病感染内科	170万	補委 文部科学省
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病感染内科	100万	補委 厚生労働省
アレルギー性肉芽腫性血管炎の実態調査	廣畑 俊成	膠原病感染内科	50万	補委 東京都福祉保健局
生体防御系反応性異常疾患群の機能調節を目指した治療の開発	廣畑 俊成	膠原病感染内科	50万	補委 文部科学省
混合性結合組織病の病態解明、早期診断と治療法の確立に関する研究	田中 住明	膠原病感染内科	170万	補委 厚生労働省
				補委

計 5

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Immunol	Induction of type B synovocyte-like cells from plasmacytoid dendritic cells of the bone marrow in rheumatoid arthritis and osteoarthritis.	Hirohata S, Nagai T, Asako K, Tomita T, Yoshikawa H.	膠原病感染内科
Clin Exp Rheumatol	Efficacy of serum angiopoietin-1 measurement in the diagnosis of early rheumatoid arthritis	Ishikawa A, Okada J, Nishi K, Hirohata S.	膠原病感染内科
Kitasato med J	Elevation of interleukin 8 in cerebrospinal fluid in neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Ishikawa A, Asako K, Hirohata S	膠原病感染内科
Mod Rheumatol	Clinical characteristics of neuro-Behcet's disease in Japan: a multicenter retrospective analysis.	Hirohata S, Kikuchi H, Sawada T, Nagafuchi H, Kuwana M, Takeno M, Ishigatsubo Y.	膠原病感染内科
J Rheumatol	Predictors of survival and causes of death in Japanese patients with systemic sclerosis.	Hashimoto A, Tejima S, Tono T, Suzuki M, Tanaka S, Matsui T, Tohma S, Endo H, Hirohata S.	膠原病感染内科
臨床リウマチ	抗リボソームP抗体の関与が示唆されたループス腎炎の一例	手嶋智子、小川英佑、永井立夫、田中住明、石川章、廣畑俊成	膠原病感染内科
北里医学	生物学的製剤投与中止後にニューモシスチス肺炎を再発した関節リウマチの1例	児玉華子、永井立夫、小川英佑、田中淳一、星健太、田中住明、廣畑俊成	膠原病感染内科
Mod Rheumatol	Histopathological analysis of cerebral hemorrhage in systemic lupus erythematosus complicated with antiphospholipid syndrome.	Arinuma Y, Kikuchi H, Aramaki K, Kyogoku M, Hirohata S.	膠原病感染内科
Arthritis Res Ther	Serum level of soluble CX3CL1/fractalkine is elevated in patients with polymyositis and dermatomyositis, which is correlated with disease activity.	Suzuki F, Kubota T, Miyazaki Y, Ishikawa K, Ebisawa M, Hirohata S, Ogura T, Mizusawa H, Imai T, Miyasaka N, Nanki T.	膠原病感染内科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高濃度酸素による肺障害に対する水素吸入の効果	小林弘祐	北里大学 医療系研究科	800,000	補委 日本学術振興会
呼吸リハビリテーションにおける呼吸筋活動とその評価法に関する研究	片桐真人	北里大学 医療衛生学部	2,100,000	補委 日本学術振興会
				補委

計 2

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Desalination and Water Treatment	Removal of an endotoxin fragment (Lipid A) by an endotoxin-retentive filter	Kokubo K	医療系研究科
Oncology letters	Rapid deconjugation of SN-38 glucuronide and adsorption of released free SN-38 by intestinal microorganisms in rat	Takakura A	医学部呼吸器内科学
Oncology letters	Prevalence of topoisomerase I genetic mutations and UGT1A1 polymorphisms associated with irinotecan in individuals of Asian descent	Fukui T	医学部呼吸器内科学
Oncogene	Potential utility of HOP homeobox gene promoter methylation as a marker of tumor aggressiveness in gastric cancer	Ooki A	医学部呼吸器内科学
Adv Exp Med Biol	Macrophages that survive hyperoxia exposure have higher superoxide dismutase activities in their mitochondria	Kokubo K	医療系研究科
Adv Exp Med Biol	Respiratory Rhythms in Healthy Subjects and Patients	Shimane M	医学部呼吸器内科学
Chest	Prognostic significance of nestin expression in resected non-small cell lung cancer	Ryuge S	医学部呼吸器内科学
Anti cancer Res.	Impacts of treatment lines and initiation timing of erlotinib for advanced non-small cell lung cancer	Igawa S	医学部呼吸器内科学
Gan To Kagaku Ryoho	Pemetrexed as second-line treatment and beyond for elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer	Otani S	医学部呼吸器内科学
Int J Radiat Oncol Biol Phys.	Phase I results of vinorelbine with concurrent radiotherapy in elderly patients with unresectable, locally advanced non-small-cell lung cancer: West Japan Thoracic Oncology Group (WJTOG3005-DI)	Igawa S	医学部呼吸器内科学
Lung cancer	The balance between the expressions of hASH1 and HES1 differs between large cell neuroendocrine carcinoma and small cell carcinoma of the lung	Masuda	医学部呼吸器内科学
Anti cancer Res.	Phase II study of topotecan with cisplatin in Japanese patients with small cell lung cancer	Masuda	医学部呼吸器内科学

計 12

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自殺未遂者等の地域支援ネットワーク構築に関する研究事業	山本賢司	精神神経科	750万円	補委 相模原市
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychosomatics	Predictors of Psychological Distress After Diagnosis in Breast Cancer Patients And Patients with Benign Breast Problems.	Ando N	精神神経科
Medical Case Studies	Metabolic syndrome in Japanese patients with mental retardation.	Hoshino S	精神神経科
The Kitasato Medical Journal	Daily physical activity in patients with schizophrenia.	Yamamoto H	精神神経科
Familial Cancer	Concerns about inherited risk of breast cancer prior to diagnosis in Japanese patients with breast complaints	Ando N	精神神経科
精神医学	心理検査を用いた統合失調症の初期症状に関する研究 - 健常者との比較から。	美柑織香	精神神経科
診断と治療	内科患者の精神科・心療内科的対応 - こころの健康を高める。 II. 内科的疾患における精神症状とその対応 呼吸器疾患。	山本賢司	精神神経科

計 6

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
‘ヒト頭部皮膚由来毛包幹細胞を組み込んだ培養皮膚を用いた損傷皮膚の再生医療の確立’	天羽康之	医学部皮膚科	平成23年度 直接経費 1,300千円、間 接経費390千 円	補 2011-2013年度日 本学術振興会科学 研究費補助金(基 盤研究C); 天羽 康 之 委 補 委

計1件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Artificial Organs, 15 (1), p.77-82, 2012	‘Treatment of intractable skin ulcers caused by vascular insufficiency with allogeneic cultured dermal substitute: a report of 8 cases.’	Tomonori Taniguchi (谷口友則), Yasuyuki Amoh (天羽康之), Kenichi Tanabe, Kensei Katsuoka, Yoshimitsu Kuroyanag	北里大学医学部皮膚科、北里大学医療衛生学部・人工皮膚研究開発センター
The Journal of Dermatology 39, p.33-38, 2012	‘Multipotent nestin-positive hair follicle pluripotent stem (hfPS) cells can promote regeneration of impinged peripheral nerve injury.’	Yasuyuki Amoh, Ryoichi Aki, Maho Kanoh, Shiro Niiyama, Katsumasa Kawahara, Yuichi Sato, Yoichi Tani, Robert M. Hoffman, and	北里大学医学部皮膚科、北里大学大学院医療系研究科・細胞分子生理学、北里大学医療衛生学部・病理学

計2件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
動態追跡医科学研究	早川 和重	放射線治療科	200,000	補 委 文科省科学研究費 補助金基盤研究 (A)
肺癌の放射線療法・化学療法の 治療効果予測に関する分子生物 学的・病理組織学的研究	早川 和重	放射線治療科	700,000	補 委 文科省科学研究費 補助金基盤研究(c)
放射線治療を含む標準治療確立 のための多施設共同研究	早川 和重	放射線治療科	500,000	補 委 厚生労働省がん研 究助成金(伊藤班)
がん診療ガイドラインの作成(新 規・更新)と公開の維持およびその 在り方に関する研究	早川 和重	放射線治療科	1,000,000	補 委 厚生労働省がん臨 床研究事業(平田 班)
				補 委

計 4件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Radiat Oncol Biol Phys.	Comparison of prophylactic naftopidil, tamsulosin, and silodosin for 125I brachytherapy-induced lower urinary tract symptoms in patients with prostate cancer: randomized controlled trial.	Tsumura H , Hayakawa K , et al	放射線治療科
Ann Nucl Med.	Phase I clinical study of NMK36: a new PET tracer with the synthetic amino acid analogue anti-[18F]FACBC.	Asano Y , Hayakawa K , et al	放射線治療科
J Radiat Res.	The radiotherapy with methotrexate, vinblastine, doxorubicin, and cisplatin treatment is an effective therapeutic option in patients with advanced or metastatic bladder cancer.	Ikeda M , Hayakawa K , et al	放射線治療科
J Radiat Res.	A Survey of Patients with Inflammatory Skin Recurrence Corresponding to the Area of Previous Irradiation after Postoperative Radiotherapy for Breast Cancer	Kotani s , Hayakawa K , et al	放射線治療科
Jpn J Clin Oncol.	Functional organ preservation for laryngeal cancer: past, present and future.	Nakayama M , Hayakawa K , et al	放射線治療科
brachytherapy	Effects of ellipsoid prostate deformation on dose delivery during permanent interstitial brachytherapy	Ishiyama , Hayakawa K , et al	放射線治療科

計 6件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 0

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Nuclear Medicine	Estimation of Tc-99m MAG3 Clearance Using Camera-based Methods without Blood Sampling	Yusuke Inoue	放射線画像診断科
Radiographics	Diffusion Weighted Imaging (DWI) of the Breast: Principles and Clinical Applications	Reiko Woodhams	放射線画像診断科
Annals of Nuclear Medicine	Phase I clinical study of NMK36: A new PET tracer with the synthetic amino acid analogue anti- ^[18F] FACBC	Yuji Asano, Yusuke Inoue	放射線画像診断科
Annals of Nuclear Medicine	Use of an oral effervescent agent in the evaluation of gastric ⁶⁷ Ga uptake	Takeshi Yamada, Yusuke Inoue	放射線画像診断科

計 4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌肝転移制御を目指したRAS・TGFベータ経路活性化の検討	渡邊昌彦	外科	70万	補 ○ 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
ステージⅠ進行胃癌における再発予測システムの開発	山下継史	外科	70万	補 ○ 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
胃癌の腹水微量癌細胞の分子生物学的診断法の開発	菊池史郎	外科	120万	補 ○ 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
直腸癌の側方リンパ節転移のホップ遺伝子メチル化による検出と予測に関する検討	中村隆俊	外科	70万	補 ○ 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
大腸癌におけるHOPX]の治療標的の可能性	大木 暁	外科	160万	補 ○ 委 独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	渡邊昌彦	外科	50万	補 ○ 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	佐藤武郎	外科	50万	補 ○ 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
高齢者がん治療アルゴリズム開発のためのガイドポストデータベースの構築と必須情報及びその推定モデルの策定	渡邊昌彦	外科	105万9千	補 ○ 委 厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業

計 8

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer research	Comparison of staging between the old (6th edition) and new (7th edition) TNM classifications in advanced gastric cancer.	菊池 史郎	外科
Surgery Today	Laparoscopic resection of a gastrointestinal stromal tumor of the rectum after treatment with imatinib mesylate: report of a case.	中村 隆俊	外科
Hepatogastroenterology	Short- and long-term outcomes of laparoscopic surgery in patients with pathological stage II and III colon cancer.	中村 隆俊	外科
Hepatogastroenterology	Oncological outcomes of laparoscopic surgery in elderly patients with colon cancer: a comparison of patients 64 years or younger with those 75 years or older.	中村 隆俊	外科
癌の臨床	【下部直腸がん手術:術前化学放射線療法と肛門機能】術前化学放射線療法で局所・骨盤内再発は0%にできるか?	佐藤 武郎	外科
癌と化学療法	A rare case of huge triple-negative of accessory breast cancer enlarged during the course of chemotherapy	林 京子	外科

World journal of gastroentology	Trend in gastric cancer: 35 years of surgical experience in Japan.	山下 継史	外科
World journal of surgery	Lymphatic tumor emboli detected by D2-40 immunostaining can more accurately predict lymph-node metastasis.	森谷 宏光	外科
Annals of surgical oncology	Prognostic significance of preoperative bowel obstruction in stage III colorectal cancer.	加藤 弘	外科
BioMed Central cancer	Therapeutic potential of PRL-3 targeting and clinical significance of PRL-3 genomic amplification in gastric cancer.	大木 暁	外科
Surgery today	Successful laparoscopic resection of a sacrococcygeal teratoma in an adult: report of a case.	筒井 敦子	外科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肺癌個別化医療を目指した肺癌再発予測診断システムの構築	伊豫田 明	呼吸器外科学	143万円	⑬ 独立行政法人 日本学術振興会
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Exp Therap Med	Prediction of postoperative exacerbation of interstitial pneumonia in patients with lung cancer and interstitial lung disease.	伊豫田 明	呼吸器外科学
Exp Therap Med	Expression profiling and identification of potential molecular targets for therapy in pulmonary large-cell neuroendocrine carcinoma.	伊豫田 明	呼吸器外科学
Kitasato Med J	Role of thromboxane A2 in enhancement of lung metastasis through the increased adhesion of platelets to tumor cells in mice.	松井 啓夫	呼吸器外科学

計 3

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
筋ジストロフィーに伴う脊椎変形に対する外科的治療	高相 晶士	整形外科	70万円	補委 厚生労働省
				補委

計 1

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Exp Anim. 2012;61(4):427-33.	1. Bone marrow-engrafted cells after mice umbilical cord blood transplantation differentiate into osteoblastic cells in response to fracture and placement of titanium screws.	Uchida K, Ueno M, Naruse K, Urabe K, Onuma K, Sakai R, Itoman M, Takaso M.	整形外科
Int Orthop. 2012 Jul 17. [Epub ahead of print]	2. Evaluation of bipolar hemiarthroplasty for the treatment of steroid-induced osteonecrosis of the femoral head.	Moriya M, Uchiyama K, Takahira N, Fukushima K, Yamamoto T, Hoshi K, Itoman M, Takaso M.	整形外科
J Med Case Rep. 2012 Jun 13;6(1):152.	3. Spinal subarachnoid hematoma in a woman with HELLP syndrome: a case report.	Fujimaki H, Nakazawa T, Ueno M, Imura T, Saito W, Takahira N, Takaso M.	整形外科
Yonsei Med J. 2012 Jul 1;53(4):788-93.	4. Transdermal fentanyl for chronic low back pain.	Ohtori S, Inoue G, Orita S, Eguchi Y, Ochiai N, Kishida S, Takaso M, Aoki Y, Kuniyoshi K, Nakamura J, Ishikawa T, Arai G, Miyagi M, Kamoda H, Suzuki M, Toyone T, Takahashi K.	整形外科
Eur Spine J. 2012 Feb 21.	5. Efficacy of epidural administration of anti-interleukin-6 receptor antibody onto spinal nerve for treatment of sciatica.	Ohtori S, Miyagi M, Eguchi Y, Inoue G, Orita S, Ochiai N, Kishida S, Kuniyoshi K, Nakamura J, Aoki Y, Ishikawa T, Arai G, Kamoda H, Suzuki M, Takaso M, Furuya T, Kubota G, Sakuma Y, Oikawa Y, Toyone T, Takahashi K.	整形外科
Yonsei Med J. 2012 Mar;53(2):416-21.	6. Clinical incidence of sacroiliac joint arthritis and pain after sacropelvic fixation for spinal deformity.	Ohtori S, Sainoh T, Takaso M, Inoue G, Orita S, Eguchi Y, Nakamura J, Aoki Y, Ishikawa T, Miyagi M, Arai G, Kamoda H, Suzuki M, Kubota G, Sakuma Y, Oikawa Y, Yamazaki M, Toyone T, Takahashi K.	整形外科

Exp Anim. 2012; 61(1):59-66.	7. Differential age-related bone architecture changes between female and male STR/Ort mice.	Uchida K, Urabe K, Naruse K, Kozai Y, Onuma K, Mikuni-Takagaki Y, Kashima I, Ueno M, Sakai R, Itoman M, Takaso M.	整形外科
Hip Int. 2011 Nov-Dec;21(6):718-23.	8. Hammering sound frequency analysis and prevention of intraoperative periprosthetic fractures during total hip arthroplasty.	Sakai R, Kikuchi A, Morita T, Takahira N, Uchiyama K, Yamamoto T, Moriya M, Uchida K, Fukushima K, Tanaka K, Takaso M, Itoman M, Mabuchi K.	整形外科
Brain Nerve. 2011 Nov;63(11):1237-44.	9. Treatment for neuromuscular scoliosis in duchenne muscular dystrophy	Saito W, Takaso M.	整形外科
Exp Anim. 2011; 60 (5):455-62.	10. Distribution of bone marrow-derived cells in the fracture callus during plate fixation in a green fluorescent protein-chimeric mouse model.	Ueno M, Uchida K, Takaso M, Minehara H, Suto K, Takahira N, Steck R, Schuetz MA, Itoman M.	整形外科
Spine (Phila Pa 1976). 2012 Mar 15;37(6):439-44.	11. Epidural administration of spinal nerves with the tumor necrosis factor-alpha inhibitor, etanercept, compared with dexamethasone for treatment of sciatica in patients with lumbar spinal stenosis: a prospective randomized study.	Ohtori S, Miyagi M, Eguchi Y, Inoue G, Orita S, Ochiai N, Kishida S, Kuniyoshi K, Nakamura J, Aoki Y, Ishikawa T, Arai G, Kamoda H, Suzuki M, Takaso M, Furuya T, Toyone T, Takahashi K.	整形外科
Exp Anim. 2011; 60(4):385-95.	12. Low intensity pulsed ultrasound accelerates delayed healing process by reducing the time required for the completion of endochondral ossification in the aged mouse femur fracture model.	Katano M, Naruse K, Uchida K, Mikuni-Takagaki Y, Takaso M, Itoman M, Urabe K.	整形外科
Hip Int. 2011 Jun 13; 21(3):330-335.	13. Hammering force during cementless total hip arthroplasty and risk of microfracture.	Sakai R, Takahashi A, Takahira N, Uchiyama K, Yamamoto T, Uchida K, Fukushima K, Moriya M, Takaso M, Itoman M, Mabuchi K.	整形外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 0

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Br J Ophthalmol	Effect of pupil size on uncorrected visual acuity in astigmatic eyes	神谷和孝	眼科
あたらしい眼科	リファブチンに関連した前房蓄膿を伴うぶどう膜炎	飯島敬	眼科
自律神経	実験的異なる視における調節機能の検討	浅川賢	医療衛生学部
Br J Ophthalmology	Early clinical outcomes of implantation of posterior chamber phakic intraocular lens with a central hole (Hole ICL) for moderate to high myopia	清水公也	眼科
あたらしい眼科	円錐角膜眼におけるEnhanced Ectasia Displayの有用性	石井梨絵	大学院医療系研究科
視覚の科学	コントラスト感度と視力に影響するフレネル膜プリズムの最小度数 Effects of Fresnel Prism Power on Contrast Sensitivity and Visual Acuity	浅川賢	医療衛生学部
Optom Vis Sci.	Daytime Variation in Pupil size under Photopic Conditions	小橋英長	大学院医療系研究科

J Refract Surg.	Clinical Outcomes of Photoastigmatic Refractive Keratectomy for the Correction of Residual Refractive Errors Following Cataract Surgery	神谷和孝	眼科
Acta Ophthalmol.	Corneal biomechanical properties in normal-tension glaucoma.	森田哲也	眼科
Curr Eye Res.	Factors influencing the changes in coma-like aberrations after myopic kaser in situ keratomileusis.	神谷和孝	眼科
J Cataract Refract Surg.	Pseudophakic monovision using monofocal and multifocal intraocular lenses: Hybrid monovision	飯田嘉彦	眼科
眼科臨床紀要	中心脈絡膜厚の日内変動 Diurnal variation of central choroidal thickness	伊藤志織	眼科
日本コンタクトレンズ学会誌	虹彩付きカラーコンタクトレンズが視機能に及ぼす影響-Influence of Cosmetically Tinted Soft Contact Lenses on Visual Function-	藤村英佐子	医療衛生学部
Cornea	Correlation of Corneal Elevation With Severity of Keratoconus by Means of Anterior and Posterior Topographic Analysis	石井梨絵	大学院医療系研究科
Optom Vis Sci.	Effect of Astigmatism on Apparent Accommodation in Pseudophakic Eyes	神谷和孝	眼科
Jpn J Ophthalmol.	Effects of selective-wavelength block filters on pupillary light reflex under red and blue light stimuli	石川均	医療衛生学部
視覚の科学	ヘッドマウントディスプレイを用いた新しい両眼視機能検査装置の使用経験: Application of New Tessting Device for Binocular Function	進藤真紀	大学院医療系研究科

計17

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

計6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
急性高度難聴に関する調査研究	岡本 牧人	耳鼻咽喉科	80 万	補 厚生労働省 委
前庭水管拡大症の臨床所見と遺伝子変異解析に基づく新診断基準作成	岡本 牧人	耳鼻咽喉科	70 万	補 厚生労働省 委
喉頭機能温存手術 SCL-SHEPの術後音声嚙下機能に関わる生理的エビデンスの解析	中山 明仁	耳鼻咽喉科	70 万	補 文部科学省 委
坑利尿ホルモン投与による血管条の形態変化に伴う聴力障害に関する研究	長沼 英明	耳鼻咽喉科	90 万	補 文部科学省 委
喉頭垂全摘出術 (SCL-CHEP)のMD-CTによる3次元的解析	清野 由輩	耳鼻咽喉科	40 万	補 文部科学省 委
超高速度デジタル撮影による喉頭機能温存手術後の音源定位に関する研究	林 政一	耳鼻咽喉科	60 万	補 文部科学省 委

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

計8

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Laryngoscope	Diagnosis of the Extent of Advanced Oropharyngeal and Hypopharyngeal Cancers by Narrow Band Imaging With Magnifying.	松葉宏起	耳鼻咽喉科
Laryngology&Otolology	Computer-based analysis with three-dimensional imaging constructed from fine-slice computed tomography scan of supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy: report of two cases.	清野由輩	耳鼻咽喉科
AURIS NASUS LARYNX	Clinical significance of intraoperative surgical margin study in supracricoid laryngectomy.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx,	Laminin-5 immunohistochemical mapping for analysis of local extension in hypopharyngeal cancer: A preliminary report.	中山明仁	耳鼻咽喉科
J Laryngol Otol	'Flaccid neoglottis' following supracricoid partial laryngectomy: laryngoscopic revision assisted by navigation system.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Laryngoscope	A novel orthotopic mouse model of head and neck cancer with molecular imaging.	宮本俊輔	耳鼻咽喉科
Audiology Japan	北里大学における過去16年間の突発性難聴への治療方法とその効果.	佐野 肇	耳鼻咽喉科
Audiology Japan	補聴による会話レベルの語音明瞭度の改善.	松平登志正	耳鼻咽喉科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腫瘍随伴性腎細胞癌のプロテオーム解析	岩村正嗣	泌尿器科	1,430,000	補委 文部科学省
二重免疫染色法を用いた血管周皮細胞の検討と腎細胞癌の予後との関連	松田大介	泌尿器科	1,170,000	補委 文部科学省
ハイリスク前立腺癌に対するネオアジュバント遺伝子治療	佐藤威文	泌尿器科	1,690,000	補委 文部科学省
高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	馬場志郎	泌尿器科	150,000	補委 厚生労働省
去勢抵抗性前立腺癌に対する新規がんペプチドワクチン療法開発のための第Ⅰ相・第Ⅱ相(前半)臨床試験	松本和将	泌尿器科	3,000,000	補委 厚生労働省
				補委

計 5

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY	Combination of Gemcitabine and Paclitaxel is a Favorable Option for Patients with Advanced or Metastatic Urothelial Carcinoma Previously Treated with Cisplatin-based Chemotherapy	Masaomi IKeda,	泌尿器科
JOURNAL OF RADIATION RESEARCH	The Radiotherapy with Methotrexate, Vinblastine, Doxorubicin, and Cisplatin Treatment Is an Effective Therapeutic Option in Patients with Advanced or Metastatic Bladder Cancer	Masaomi IKeda,	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology	仙骨表面治療的電気刺激法(ssTES)の、腹腔鏡下根治的前立腺摘除術後尿禁制獲得に及ぼす影響についての前向き検討	西 盛宏	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology and ESWL	腹腔鏡下腎盂形成術:初期50尿管の長期成績	岩村 正嗣	泌尿器科
BJU INTERNATIONAL	A phase I study of personalized peptide vaccination for advanced urothelial carcinoma patients who failed treatment with methotrexate, vinblastine, adriamycin and cisplatin	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科
WORLD JOURNAL OF UROLOGY	Gender differences in radical nephroureterectomy for upper tract urothelial carcinoma	Shahrokh F.Shariat,,Kazumas a Matsumoto	泌尿器科
ANALYTICAL AND BIOANALYTICAL CHEMISTRY	14-3-3 Protein beta/alpha as a urinary biomarker for renal cell carcinoma:proteomic analysis of cyst fluid	Satoru Minamida	泌尿器科
JOURNAL OF CLINICAL LABORATORY ANALYSIS	Associations of IgG N-Linked Oligosaccharide Chains and Proteases in Sera of Prostate Cancer Patients With and Without α 2-Macroglobulin Deficiency	Yusaku Kanoh, Shin Egawa, Shiro Baba	泌尿器科

計 8

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」	恩田貴志	婦人科	500,000	補委 文部科学省
婦人科悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	恩田貴志	婦人科	1,100,000	補委 国立がん研究センター
化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究	恩田貴志	婦人科	2,000,000	補委 厚生労働省
地域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究	海野信也	産科	13,180,000	補委 厚生労働省
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Kitasato Medical Journal	Intracranial hemorrhage in full-term infants following vaginal delivery in a Japanese Perinatal Center.	Yuji Kanai	産科
Japanese Journal of Clinical Oncology	The History of the Gynecologic Cancer Study Group (GCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG)	Takashi Onda	婦人科

計 2

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
川崎病の効果的治療法の開発と 病因究明:分子遺伝学的基盤とプ ロテオーム解析	石井 正浩	小児科学	70万円	補 委 文部科学省
難治性川崎病児の液性および細 胞性免疫動態の解析:予防接種と の関連の検討	佐藤加代子	小児科学	30万円	補 委 特定非営利活動法 人日本川崎病研究 センター
小児肥満症の改善、予防の統合 研究-基礎から実践へ、エビデンス ある介入を目指して-	田久保憲行	小児科学	320万円	補 委 文部科学省
川崎病の急性期のステロイド治療 が遠隔期の血管における影響:血 管形態および内皮機能の検討	北川 篤史	小児科学	90万円	補 委 特定非営利活動法 人日本川崎病研究 センター
				補 委
				補 委

計 4件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kitasato Medical Journal	Percutaneous bilateral pulmonary artery banding using re-expandable covered stent	Nakahata Y, Ishii M	北里大学
J Echocardiography	Noninvasive assessment of pulmonary vascular resistance and pressure in patients with congenital heart disease: a new method using M-mode echocardiography	Kimura S, Ishii M	北里大学
Heart Asia	Incomplete Kawasaki disease:early findings consist of congestive heart failure due to valvular heart disease	Honda T, Ogata S, Ishii M	北里大学
Pediatrics	Corticosteroid Pulse Combination Therapy for Refractory Kawasaki Disease:A Randomized Trial.	Ogata S, Ishii M	北里大学
Pediatrics	Late intravenous immunoglobulin treatment in patients with Kawasaki disease	Muta H, Ishii M	飯塚市立病院 北里大学

計 5件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Sox遺伝子によるβ-カテニン転写ネットワーク制御と子宮内膜癌新規治療法への展開	三枝 信	病院病理部	2,210,000	補委 日本学術振興会
GPIアンカー型膜蛋白CD109の個体発生における役割と生体内での生理機能の解明	村雲芳樹	病院病理部	1,560,000	補委 日本学術振興会
生後の血管新生、神経新生を制御する分子メカニズムと病態形成	村雲芳樹	病院病理部	400,000	補委 日本学術振興会
潰瘍性大腸炎特異的新規遺伝子CITED2の腸炎発症・発癌機序に果たす役割	吉田 功	病院病理部	110,000	補委 日本学術振興会
潰瘍性大腸炎と治療への分子病理学的研究	吉田 功	病院病理部	70,000	補委 神奈川難病研究財団
進行胃癌に対する術前化学療法の治療効果関連因子の解明と治療効果予測システムの確立	一戸昌明	病院病理部	1,700,000	補委 日本学術振興会
				補委

計 6

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Dev Biol	Loss of Sprouty2 partially rescues renal hypoplasia and stomach hypoganglionosis but not intestinal aganglionosis in Ret Y1062F mutant mice.	村雲芳樹	病院病理部
Mol Biol Cell	Protective role of Gipiie, a Girdin family protein, in endoplasmic reticulum stress responses in endothelial cells	村雲芳樹	病院病理部
サクラファインテックweb情報誌 標本道場 ベテラン編	PCR-SSCP/Direct-Sequencing法の病理診断への応用 -薬剤の適応予測として-	山下和也	病院病理部
Histo-Logic Japan	組織標本作製における臓器別標準化と精度管理 子宮筋腫組織標本作製におけるメタノール脱水の効果	山下和也	病院病理部
Pathol Int	High expression of L-type amino-acid transporter 1 (LAT1) in gastric carcinomas: comparison with non-cancerous lesions	一戸昌明	病院病理部
Diag Pathol	Invasive behavior of ulcerative colitis-associated carcinoma is related to reduced expression of CD44 extracellular domain: comparison with sporadic colon carcinoma	三上哲夫	病院病理部
J Gastroenterol	CITED2 is activated in ulcerative colitis and induces p53-dependent apoptosis in response to butyric acid	吉田 功	病院病理部
Hist Histopathol	Cytoglobin expression of rectal subepithelial myofibroblasts: Significant alterations of cytoglobin+ stromal cells in long-standing ulcerative colitis	岡安 勲	病院病理部

計 8

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 0 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Laboratory	Acute inflammatory biomarkers in cerebrospinal fluid as indicator of blood cerebrospinal fluid barrier in Japanese subjects	狩野有作	臨床検査部
日本臨床検査医学会誌	動脈硬化マーカーと生理検査－抗動脈硬化療法における変動とその有用性について－	狩野有作	臨床検査部
日本臨床検査医学会誌	人工透析導入後の慢性腎不全患者における脳波基礎律動と血液生化学データとの相関性について	小野澤裕也	臨床検査部
超音波検査技術	超音波パルスドプラ法を用いた肝切除前後の肝血流動態の検討	柳原美智子	臨床検査部
Kitasato Med J	The role of the genetic test of verotoxin for bacterial carrier investigation of cooking staff: detection of enterohemorrhagic Escherichia coli	二本柳伸	臨床検査部
Autoimmunity	Cognate interaction plays a key role in the surveillance of autoreactive B cells in induced mixed bone marrow chimerism in XSB lupus mice?	竹内恵美子	臨床検査部
神奈川県臨床衛生検査技師会誌	各種保存条件におけるNeisseria gonorrhoeaeの経時的生菌数に関する検討	二本柳伸	臨床検査部

計 7 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長	海野	信也
管理担当者氏名	事務部長	高橋	修

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理課 放射線部	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号（患者番号7桁）を設定。 中間桁分類法を採用し、保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター一部	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十一項の確保各号及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター一部 総務課 医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 高橋 修
閲覧担当者氏名	総務次長 潮田 好美
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	82.9 %	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	24,974人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,693人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,648人	
	D: 初診の患者の数	37,513人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号及び第 9 条の 23 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊥・無
・ 指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢） 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 安全管理のための職員への教育研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための方策 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容：【リスクマネジメント委員会の開催】 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 51 回
・ 研修の主な内容 リスクマネジメント研修会（外部講師・内部講師による、全職員対象） リスクマネジャー研修会（外部講師による、医療安全推進者を含む） 各種の医療安全研修会（医療KYT、コミュニケーション、分析手法、深部静脈血栓症 防止、血管外漏出、転倒・転落の防止、添付文書情報の読み方、他） 新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時） 復職医師・中途採用医師の随時研修、看護師のフォローアップ研修、その他	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（㊥・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、 マニュアルの改廃・作成、機器・器具類の改善等）	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊥（4名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊥（3名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊥・無
・ 所属職員：専任（7）名、兼任（3）名 ・ 活動の主な内容： リスクマネジメント委員会の運営に関する業務 医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務 医療安全のための職員研修に関する業務 医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務 患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務 医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務 医療訴訟、和解等に関する業務 その他	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊥・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無																																																
<p>・ 指針の主な内容：平成 24 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 『院内感染対策のための指針』は、平成 19 年 4 月 1 日付で制定し、平成 22 年 2 月 24 日付、平成 24 年 2 月 22 日付で一部改定した。</p> <p>(2) 同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針、指針の改廃手続を定めている。</p> <p>(3) 院内感染管理体制は、院内感染対策全般の対応を協議する院内感染防止委員会と、院内感染防止のための企画・立案を担う感染管理室を病院長直轄として設置している。また、その下部組織には感染対策の実働部隊として院内感染対策チーム (ICT) を配置し、各部署には ICT との連絡や対策の推進を担うリンクスタッフを任命し、速やかな対応が可能となる管理体制を構築している。</p>																																																	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回																																																
<p>・ 活動の主な内容：平成 23 年度 1 年分</p> <p>(1) 院内感染防止委員会 (ICC) は、原則として毎月第 4 水曜日午後 5 時から開催した。</p> <p>(2) ICC の議題は、院内感染対策や感染症検査の扱い、ICC 運営や院内感染対策チーム (ICT) などの運営に関すること、ICT 活動報告、定期報告、その他の感染に関する議題を検討した。</p> <p>(3) 定期報告は、前月の分離菌や薬剤耐性菌、法令規定の感染症病原菌の検出状況、ウイルス抗原検査状況、大学病院で実施した東病院の感染症関連検査報告、感染症届出及び病原体検出速報、職員の針刺等事故発生状況報告、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告である。</p>																																																	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 15 回																																																
<p>・ 研修の主な内容：平成 23 年度 1 年分</p> <p>(1) 採用時研修は、新入職員は入職時年 1 回、中途採用の医師や看護師は随時実施した。 新規採用の看護師と研修医を対象とし、感染対策に関する講義と、手洗い・針刺し防止・防護具の着脱方法の実技演習を実施した。なお、研修医は、血液培養手順などの演習を追加した。</p> <p>(2) 全職員を対象とする講演会は年 3 回開催した。全職員対象の講演会は、ビデオによる講演会を各 3 回開催し、DVD の貸出聴講も実施した。</p>																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>内容</th> <th>対象</th> <th>講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H230428</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>院内感染防止対策の手引 2010 年版追補の説明</td> <td>全職員</td> <td>感染管理室室長補佐 高山陽子</td> </tr> <tr> <td>H231114</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>医療安全活動報告 感染管理・針刺報告</td> <td>全職員</td> <td>感染管理室師長補佐 藤木くに子</td> </tr> <tr> <td>H231207</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>東日本大震災と感染症・ 感染対策</td> <td>全職員</td> <td>東北大学大学院医学系研究科 具 芳明</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	会場	内容	対象	講師	H230428	合同講義室ほか	院内感染防止対策の手引 2010 年版追補の説明	全職員	感染管理室室長補佐 高山陽子	H231114	合同講義室ほか	医療安全活動報告 感染管理・針刺報告	全職員	感染管理室師長補佐 藤木くに子	H231207	合同講義室ほか	東日本大震災と感染症・ 感染対策	全職員	東北大学大学院医学系研究科 具 芳明	<p>(3) リンクスタッフを召集した会合は 10 回、この会合の中で感染対策の研修を 6 回実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>内容</th> <th>講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H230519</td> <td>臨床講義室</td> <td>感染管理体制</td> <td>感染管理室主任 高城由美子</td> </tr> <tr> <td>H230616</td> <td>臨床講義室</td> <td>部署間相互ラウンド・グループワーク</td> <td>感染管理室主任 高城由美子</td> </tr> <tr> <td>H230721</td> <td>臨床講義室</td> <td>環境整備</td> <td>感染管理室師長補佐藤木くに子</td> </tr> <tr> <td>H230915</td> <td>臨床講義室</td> <td>耐性菌・抗菌薬</td> <td>感染管理室室長補佐 高山陽子</td> </tr> <tr> <td>H231117</td> <td>臨床講義室</td> <td>冬季に流行する感染症と予防策</td> <td>感染管理室係長 平田 泰良</td> </tr> <tr> <td>H231215</td> <td>臨床講義室</td> <td>手指衛生</td> <td>感染管理室主任 高城由美子</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	会場	内容	講師	H230519	臨床講義室	感染管理体制	感染管理室主任 高城由美子	H230616	臨床講義室	部署間相互ラウンド・グループワーク	感染管理室主任 高城由美子	H230721	臨床講義室	環境整備	感染管理室師長補佐藤木くに子	H230915	臨床講義室	耐性菌・抗菌薬	感染管理室室長補佐 高山陽子	H231117	臨床講義室	冬季に流行する感染症と予防策	感染管理室係長 平田 泰良	H231215	臨床講義室	手指衛生	感染管理室主任 高城由美子
開催日	会場	内容	対象	講師																																													
H230428	合同講義室ほか	院内感染防止対策の手引 2010 年版追補の説明	全職員	感染管理室室長補佐 高山陽子																																													
H231114	合同講義室ほか	医療安全活動報告 感染管理・針刺報告	全職員	感染管理室師長補佐 藤木くに子																																													
H231207	合同講義室ほか	東日本大震災と感染症・ 感染対策	全職員	東北大学大学院医学系研究科 具 芳明																																													
開催日	会場	内容	講師																																														
H230519	臨床講義室	感染管理体制	感染管理室主任 高城由美子																																														
H230616	臨床講義室	部署間相互ラウンド・グループワーク	感染管理室主任 高城由美子																																														
H230721	臨床講義室	環境整備	感染管理室師長補佐藤木くに子																																														
H230915	臨床講義室	耐性菌・抗菌薬	感染管理室室長補佐 高山陽子																																														
H231117	臨床講義室	冬季に流行する感染症と予防策	感染管理室係長 平田 泰良																																														
H231215	臨床講義室	手指衛生	感染管理室主任 高城由美子																																														
<p>(4) 研修医 1 年生を対象に「血液培養 2 セット採取の意義と細菌検査データの読み方」の研修会を開催した (7 月 26 日)。</p> <p>(5) N95 微粒子マスクのフィットチェックを実施した。対象は結核のハイリスク部門の医師や看護師など、実施機関は平成 23 年 5 月から平成 24 年 2 月まで。</p>																																																	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

(6) 手洗い検証セットを利用した「手洗い技術演習」を実施した。対象は全職員、対象期間は平成23年9月から平成24年3月まで。今年度は、速乾性擦式手指消毒薬（アルコール）に蛍光剤を添加、アルコール消毒時の手指衛生の適否を判定した後、手洗い技術を演習した。

(7) 院内常駐の委託業者職員を対象に、「病院の環境衛生について」の研修会を開催した。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (・ 無) 平成24年10月1日現在

(1) 検査結果速報の整備

臨床検査部門や病院病理部門は、検査や診断の結果、保健行政機関への届出や院内の感染拡大を防止するために院内感染防止委員会が定めた病原体・耐性菌や抗体価の異常値を検出した場合は、その検査結果を検査依頼医・感染管理室・院内感染防止委員会委員長に速報（検査結果速報）する体制。

(2) 感染症・食中毒発生報告の整備

医師は、感染症や食中毒を診断した場合には報告書を感染管理室長・院内感染防止委員会委員長に報告する体制。

(3) サーベイランスによる発生把握

手術部位感染、血管内留置カテーテル関連血流感染症、尿道留置カテーテル関連尿路感染症、人工呼吸器関連肺炎、その他のサーベイランスによる発生状況の把握

・ その他の改善のための方策の主な内容：

(1) 院内感染対策は、感染管理室を中心に対応・対策した。

(2) 『院内感染防止対策の手引2012年版（第19次改訂版）』を平成24年4月1日付で発行した。

(3) 毎週水曜日、ICU・小児病棟の感染症回診を、年間を通じて感染や病原体等に係る質問に対してコンサルテーションした。

(4) ICT活動は、毎週水曜日に抗菌薬・耐性菌や血液由来菌を対象とする感染症ラウンド、木曜日は環境ラウンドを実施した。

(5) 年間を通じて、耐性菌感染対策、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行時の対策、結核対策、食中毒対策（教職員や学生）などを実施した。

(6) 『かんせん情報誌』を6回発行し、病原体や感染対策などに関する情報を情報提供した。

(7) 院内イントラネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』、『抗菌薬感受性率一覧』、『抗菌薬使用量』などを掲示し、24時間の閲覧や情報提供に務めた。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 薬剤管理指導業務 (SOAP について) (薬剤師) 開催日：2011 年 7 月 25 日, 8 月 2 日 場所：薬剤部カンファレンスルーム 参加者：46 名 講師：薬剤部 貝沼潤・ 非ステロイド性消炎鎮痛薬の適正使用について (医師, 看護師, 薬剤師) 開催日：2011 年 7 月 29 日 場所：臨床講義室 No. 1 参加者：医師 1 名, 看護師 20 名, 薬剤師 13 名 講師：薬剤部 坂倉智子・ 麻薬・毒薬の取り扱いと麻酔薬 (研修医) 開催日：2011 年 10 月 3 日 場所：OPE 室内麻酔科カンファレンスルーム 参加者：研修医 5 名 講師：薬剤部 齊京明子・ 小児科における処方 の 注意 点 (研修 医) 開催日：2011 年 10 月 3 日 場所：3A 病棟ナースステーション 参加者：研修医 1 名 講師：薬剤部 齊京明子・ 薬剤師に必要な感染症の知識 (薬剤師) 開催日：2011 年 10 月 3 日 場所：薬剤部カンファレンスルーム 参加者：薬剤師 13 名 講師：薬剤部 齊京明子	

・薬のお話し

開催日：2011年10月21日

場所：NICU看護師カンファレンスルーム

参加者：看護師20名

講師：薬剤部 齊京明子

・院外処方せんの正しい書きかた

開催日：2011年10月28日

場所：臨床講義室 No.1

参加者：医師1名，看護師9名，薬剤師13名

講師：薬剤部 小川幸雄

・薬剤投与の基本的注意事項

開催日：2011年11月5日

場所：医学部 M-31 講義室

参加者：研修医47名

講師：薬剤部 小川幸雄

・抗凝固薬の適正使用について

開催日：2011年11月7日

場所：臨床講義室 No.1

参加者：医師2名，看護師15名，薬剤師9名

講師：薬剤部 坂倉智子

・TDMが必要な抗菌薬とその方法

開催日：2011年11月8日

場所：救命救急棟3階

参加者：医師20名，看護師5名，栄養部2名，(MR1名)

講師：薬剤部 大川原 裕樹

・薬のお話し

開催日：2011年12月22日

場所：3C病棟

参加者：病棟医3名，研修医1名

講師：薬剤部 齊京明子

・抗がん剤の副作用対策

抗悪性腫瘍剤院内取り扱い指針にそった安全な取り扱いとは？

開催日：2012年3月16日

場所：臨床講義室 No. 1

参加者：医師1名，看護師27名，薬剤師6名

講師：薬剤部 菅原充広

看護部 高尾真紀

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有) ・ 無)
- ・ 業務の主な内容：
別紙『医薬品安全使用のための業務手順書』目次参照

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 医療安全管理室との情報交換・情報収集 (1回/週)
 - ・ 投薬・注射WGにて医薬品の安全使用・管理について検討 (1回/月)
 - ・ 医薬品適正使用推進委員会、医薬品副作用検討委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に活用している。
 - ・ 休薬期間を考慮する必要性のある医薬品一覧表作成・配布

医薬品安全使用のための
業務手順書
2011

「医薬品安全使用のための業務手順書 2011」の発刊にあたって

毎日の診療業務のなかで、医療事故が最も多く起こる分野の一つは医薬品がらみである。日々の業務の中で、治療のために薬を処方する、あるいは点滴などで薬物を投与するといった簡単に思える業務の中に、如何に多くの危険が潜んでいることが、改めてその危険性の高さに驚かされる。

医薬品を使用するにあたっては、薬品名、投与量、投与経路、その投与時間などを複数名で確認し、準備する。まぎらわしい薬品名や用量の単位確認、投与方法など一歩間違えるとまさに、「薬はリスク」に変身する。さらに投与患者名の確認や本人の確認など事故が起こる可能性はあちこちに潜み、常にリスクのピットホールが存在している。

このような危険性を最小限に抑え、常に安定した作業をおこなうために発行された「医薬品安全使用のための業務手順書 2008」を改定し、このたび「医薬品安全使用のための業務手順書 2011」が発刊された。日々のインシデント報告から投薬・注射ワーキンググループで防止策が検討され、新規採用薬品の追加や、文言や手順のフローチャートをわかりやすく変更するなど、より利用者に必要な情報が網羅された内容となっている。

病院職員各位におかれましては、「医薬品安全使用のための業務手順書 2011」を大いに利用されて、その手順を遵守していただき、さらには手順書に不足する事項や新たな知見情報をお知らせいただき、病院の叡智を結集して業務手順書のさらなるブラッシュアップを図っていきたいと考える。

安全で信頼される医療の実践と組織文化の醸成に、病院職員一同、チームとして力を併せて推進していかれることを切に希望する。

2011年4月

北里大学病院長

リスクマネジメント委員会委員長

藤井 清孝

序 文

医療はますます高度化、複雑化の傾向を呈し、医療現場では医療事故と常に隣り合わせの状況にあることを認識しなければなりません。平成 19 年 4 月より施行された改正医療法及び施行規則に関連して、医療安全関連通知が出され病院の管理者は医薬品の安全使用を確保するための責任者を配置し、①手順書の作成、②研修会の実施、③業務手順書の基づく業務の実施、④情報収集と改善策の実施を遂行し、医薬品に関わる安全確保に努めなければならないことになりました。

医薬品の安全確保のためには、院内での医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を作成し、次に掲げる事項を含むものであることされています。

1. 医療機関で用いる医薬品の採用・購入に関する事項
2. 医薬品の管理に関する事項（例＝医薬品の保管場所、薬事法などの法令で適切な管理が求められている医薬品（麻薬・向精神薬、覚せい剤原料、毒薬・劇薬、特定生物由来製品等）の管理方法
3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項（例＝患者情報（薬剤の服用歴、入院時に持参してきた薬剤等）の収集、処方せんの記載方法、調剤方法、処方せんや調剤薬の監査方法）
4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項
5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い（収集、提供等）に関する事項
6. 他施設（医療機関、薬局等）との連携に関する事項

医薬品に関するこの手順書は病院の手順書であって、薬剤部だけのものではありません。医薬品を取り扱うすべてのスタッフがこの基準に沿った医療を提供することで、患者さんにとって安全で良質な医療の提供につながることを切に望むものであります。

医療は日進月歩であります。この手順書に盛り込まれた情報は当院のスタンダードとしてご理解ください。診療科の特殊性からこの内容から逸脱するケースもあるかと思われます。また、この手順書は定期的に見直しを行なっていくことになっておりますのでお気付きの点がある際には遠慮なく薬剤部（薬剤師）に声をかけていただきたくお願い申し上げます。

最後にこの発刊に際しご協力いただきました、リスクマネジメント委員会（投薬・注射ワーキング）、医療安全管理室、さらに陰ながら支援いただいた薬剤部のスタッフに心より感謝申し上げます。

2011年4月

医薬品安全管理責任者
薬剤部長
矢後 和夫

目 次

第1章 医薬品の採用	1
1-1. 採用医薬品の選定	
1-2. 採用医薬品情報の作成・提供	
第2章 医薬品の購入	7
2-1. 医薬品の発注	
2-2. 入庫管理と伝票管理	
第3章 医薬品の管理	8
3-1. 医薬品の管理（保管管理）	
3-2. 医薬品の管理（品質管理）（全病院共通）	
3-3. 規制医薬品（麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、劇薬）の管理	
第4章 医薬品情報の収集・管理・提供	18
4-1. 医薬品情報の収集・管理および専門的評価	
4-2. 医薬品情報の提供	
4-3. 医薬品副作用情報の管理	
第5章 処方	27
5-1. 処方オーダーの方法	
5-2. 処方オーダー入力時の注意点	
5-3. 問い合わせが多い処方の具体例	
5-4. 処方時の注意	
・連日投与を行わない医薬品	
・休薬期間のある医薬品	
5-5. 注射用抗菌薬投与に関するフローチャート	
5-6. 食物アレルギーと関連のある医薬品一覧	
第6章 指示だし・指示受け	46
6-1. 指示だし・指示受け手順	
6-2. 口頭指示だし・指示受け手順	
6-3. 指示注射ワークシートについて	
第7章 調剤業務ならびに病棟・各部門への医薬品の供給	52
7-1. 処方監査・疑義照会・調剤	
7-2. 調剤薬の交付・服薬指導	
7-3. 薬剤交付後の経過観察	
7-4. 注射せんに基づく病棟・各部門への供給	
7-5. 定数配置薬の病棟・各部門への供給	
7-6. 軟膏等略名一覧	
第8章 与薬業務	57
8-1. 与薬基準	
8-2. 投与経路の種類	
8-3. 与薬の実際	
8-4. 看護師の静脈注射に関する基準	
8-5. カラーシリンジ	
8-6. CVポート運用フローの実際	
8-7. 薬物血中濃度モニタリング（TDM）の実施	
8-8. 薬物血中濃度の速報基準（パニック値）対応フロー	

第9章 服薬管理	82
9-1. 薬剤師による服薬指導	
9-2. 投与後の経過観察と服薬指導記録作成	
9-3. 外来患者からの相談	
第10章 持参薬の取り扱い	87
10-1. 患者情報の収集・管理・活用	
10-2. 入院時の使用医薬品の確認	
10-3. 持参薬確認手順	
10-4. 「お薬手帳」の取扱いについて	
第11章 トラブル対応	91
11-1. 注射薬誤注入時の対応	
11-2. 血管外漏出に注意すべき注射剤について	
11-3. 血管外漏出時・漏出疑い時の処置	
11-4. 副作用報告の方法	
11-5. 副作用情報の参照方法	
11-6. 院内外副作用発現報告フロー	
11-7. 麻薬破損・紛失対応	
第12章 緊急時・集中治療領域にて使用する医薬品	101
12-1. ファーストライン医薬品	
12-2. セカンドライン医薬品	
12-3. ICUにおける注射薬調製・投与方法	
第13章 ハイリスク医薬品	109
13-1. 安全使用において特に注意が必要な主要医薬品（経口剤・外用剤）	
13-2. 安全使用において特に注意が必要な主要医薬品（注射薬）	
13-3. 抗がん薬	
13-4. 化学療法・免疫抑制療法によって発生するB型肝炎ウイルス関連 肝炎の防止について	
13-5. カリウム製剤	
13-6. ワルファリンカリウム	
13-7. インスリン	
13-8. 麻薬	
13-9. 向精神薬	
13-10. 筋弛緩薬	
第14章 特殊医薬品	137
14-1. 放射性医薬品	
14-2. 造影剤の副作用について	
14-3. 造影剤の分類	
第15章 各科特別マニュアル	144
15-1. 小児科	
15-2. 手術・麻酔部門	
15-3. 救急部門・集中治療室	
第16章 他施設との連携	147
16-1. 薬-薬連携	
16-2. 他施設からの問い合わせ等に関する体制整備	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 93 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 人工呼吸器の取扱いについて 閉鎖式保育器の取扱いについて 血液浄化装置の取扱いについて 除細動器の取扱いについて 人工心肺装置について 輸液・シリンジポンプの取扱いについて など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (○有・無)・ 保守点検の主な内容： 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電機的安全性点検) 終了時点検 (作動点検、外観点検) 日常点検 (ラウンド点検、作動点検、使用法確認) 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等)	